

ジュネーブ協会エルンスト・マイヤー賞が保険業界の抱える重要な課題への 学術的貢献を表彰

2019年の賞は、破滅的リスクの保険引受能力、および保険と金融の安定性という2つの博士論文に授与

チューリッヒ（スイス）、2019年8月22日/PR ニュースワイヤー/ --

2019年ジュネーブ協会エルンスト・マイヤー賞（2019 Geneva Association Ernst Meyer Prize）はゲーテ大学（Goethe University）（フランクフルト）クリスチャン・クビツァの論文、「金融の安定性と市場に関する小論文（*Essays on Financial Stability and Markets*）」と、エコール・ポリテクニク（Ecole Polytechnique）（パリ）アレクシス・ルーアスの論文、「破滅的リスクの保険引受能力（*Insurability of Catastrophic Risks*）」に授与されました。1976年以来ジュネーブ協会エルンスト・マイヤー賞は、リスクと保険の経済学の研究に大きく貢献する博士論文を表彰してきました。

ジュネーブ協会マネージングディレクターのジャッド・アリスは、次のように述べました：「ジュネーブ協会は、依然学術的研究に深く関わっています。変動しやすく不確かで、入り組んでいて不明瞭なこの世界において、リスクと保険に関する学問の進歩は絶対不可欠です。今年のジュネーブ協会エルンスト・マイヤー賞を破滅的リスクの保険引受能力と金融の安定性に関する2人の優れた学生の卓越した研究成果に与えることを誇りに思います。クリスチャンとアレクシスに心からの祝意を表します。2人の研究は、いかにして保険がより良い世界に貢献するかを示しているのです」

ジュネーブ・ペーパーズ・オン・リスク・アンド・インシュアランス（*The Geneva Papers on Risk and Insurance*）編集長で審査員の一人であるクリストフ・クルバージュ教授は、次のように語りました：『金融の安定性と市場に関する小論文』でクリスチャンは、最先端の理論的かつ経験的技術を用いて、システムリスクとその保険会社および

金融市場のルールとの関りについての我々の理解を深めてくれました。アレクシスは、プーリングと譲渡のリスクに関する革新的メカニズムを提起することで、『破滅的リスクの保険引受能力』という論文を保険引受能力の限界を探る以上のものにしました。これらの手法は、最も保険を利用しにくく、気候変動のようなリスクに最も曝される人々に役立ち得るものです」

審査委員会は、クルバージュ教授（Geneva School of Business Administration, University of Applied Sciences Western Switzerland : 西スイス応用科学大学ジュネーブ経営学部）のほか、アンドレアス・リヒテル教授（LMU München : ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン）とリヒャルト・ワット教授（University of Canterbury, Christchurch : カンタベリー大学クライストチャーチ）で構成されています。

2020年分の提出期限（<https://www.genevaassociation.org/geneva-association-ernst-meyer-prize-2020-call-applications>）は2020年1月15日です。2020年5月にニューヨーク市で開催予定のジュネーブ協会年次総会（The Geneva Association's Annual General Assembly）において、総会では初めてとなる授与式が行われます。

お問合せ:

Pamela Corn

広報責任者代理

+41 44 200 4996

pamela_corn@genevaassociation.org